

平成 26 年度 学習指導改善調査 協力校取組報告

糸魚川市立下早川小学校

研究主題

自分の思いや考えを、相手に分かりやすく伝える子の育成

1 研究主題設定の意図

学習指導要領には、「確かな学力」として、①基礎的・基本的な知識・技能を習得させること②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力をはぐくむこと③主体的に学習に取り組む態度を育てることの3点が示されており、また、国語科の目標においては、実生活で生きて働く力として国語を正確に理解し、表現する中で、思考力・想像力、言語感覚を培い、お互いの立場を尊重しながら、自分の考えや気持ちを伝え合う力を育てることを求めている。

今年度の学習指導改善調査の国語結果を県平均との比較や昨年度と比較すると、次のようになっている。

	県平均との比較		昨年度との比較
	県平均点	比較	
4年生	64.5	↑↑	—
5年生	67.9	↑↑	県平均をさらに上回った
6年生	71.7	↓	県平均に近づいた

県平均を5 p以上上回る：↑
県平均を10 p以上上回る：↑↑
県平均を5 p以下回る：↓

基礎的な問題は比較的できているが、考え方を記述する問題については正答率が低下する。採点・分析から、

- 問題の意図を読み取ること
- 情報の整理、取捨選択
- 適切な用語を的確に使用して説明すること

が課題であると考えた。

そこで本年度は、「自分の思いや考えを相手に分かりやすく伝える子」を目指して、表現力の向上に取り組むこととし、自分の思いを適切に表現するためには、国語をもっと正確に理解する能力も必要であると考え、国語科の「理解（読むこと・聞くこと）」と「表現（書くこと・話すこと）」の関連させた言語活動に焦点をあてて研究を進めてきた。

3 研究仮説

国語科の「理解」と「表現」を関連させて指導することによって、児童に表現力をはぐくむことができるであろう。

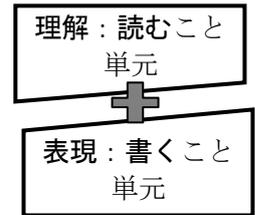
4 「理解」と「表現」を関連させた言語活動とは

理解（読むこと・聞くこと）… 相手の意図を受け止めるための読み方、聞き方の指導
表現（書くこと・話すこと）… 相手に分かりやすく伝えるための指導

第1年次の本年度は、理解の「読むこと」と表現の「書くこと」に特に重点をおいて取り組むこととし、「理解」と「表現」の関連を図る単元構成のために、次のような形式を想定した。

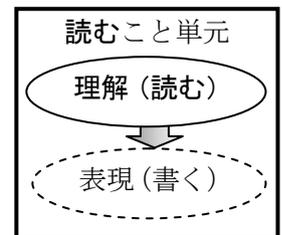
ア：「理解」と「表現」の単元を合わせて構成する

教科書教材から「読むこと」と「書くこと」に関する単元を合わせて大単元を構成する。教材文から読み取った内容、文章の構成や説明の仕方をまず理解し、その学び生かして自分の考えを他者に分かりやすく表現するという単元になるよう単元構成を工夫する。



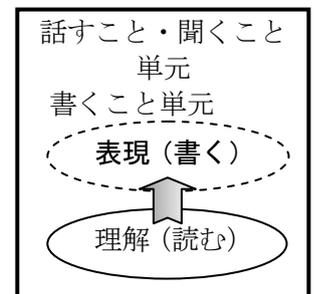
イ：「理解」の後に「表現」を組み込む

「読むこと」の教科書教材を学習し、その後、それを生かして「書くこと」に発展させていく大単元を構成する。教材文で内容や方法に注目しながら読み取り、自分の思いや考えを明確に表現する学習を組み込んだ単元を展開する。



ウ：「書くこと」「話すこと・聞くこと」の領域で「表現」するために「理解」する

「書くこと」「話すこと・聞くこと」に関する単元の教科書教材の例文から効果的な構成や書き方を学び、それらを生かして表現する大単元を構成する。



5 研究内容

- 国語科における「読むこと（理解）」と「書くこと（表現）」を関連させた単元構成の工夫
- 自分の思いや考えを伝える力を高めるための学習指導改善

6 研究の方法

- 各学期に「理解」と「表現」を関連させた言語活動を取り入れた重点単元を1単元以上設定
- 公開授業を年2回設定（研究授業1回、参観授業1回）

授業研究

- ・検証のための研究授業を全学級年1回行う。
- ・指導案検討は授業者と研究推進部で行う。
- ・研究授業後は、協議会を開き成果や課題を明らかにする。

●学習指導改善調査の分析と課題解決に向けた取組の共有

- ・7月に職員がチームを組んで採点した。その後、結果を入力し、分析を行った。
- ・結果をもとに各学年で指導改善策を協議し、2学期以降取り組む。

5 授業の実際

(1) 授業研究

上越教育大学教職大学院佐藤多佳子准教授から御指導いただき、『「理解」と「表現」を関連させた授業作り』とは、単元のゴールとなる言語活動を単元を貫いて位置付けながら学習を進めることが大切であるとして、『単元を貫く言語活動』を位置付けた授業作りを行ってきた。

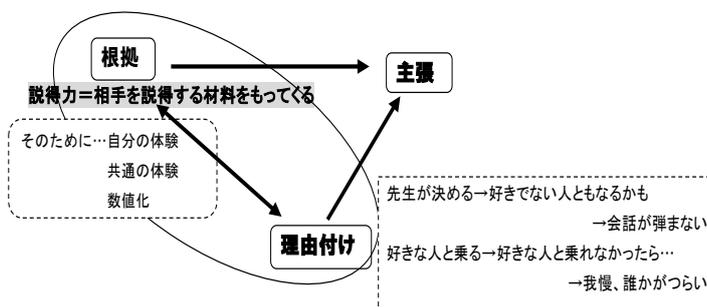
<研究授業>

時期：学年：教材名	単元名	形式	理解	表現
6月：6年 「学級討論会をしよう」	学級討論会をしよう	ウ	学級討論会をして、いろいろな意見を知る。	自分の考えの意見文を書く。
7月：3年 「海をかつとばせ」	読んで考えたことを発表しよう	イ	主人公と自分を比べて読む。	主人公に手紙を書く。
9月：1年 「見つけた」	いきもの発見ブックを作ろう	イ	書かれている視点を読み取る	生きもの発見図鑑を作る。
11月：4年 「アップとルーズで伝える」 「仕事リーフレットを作ろう」	写真と文章で説明しよう	ア	アップとルーズの違いや役割を読み取る。	学校の先生リーフレットを作る。
2月：5年 「ゆるやかにつながるインターネット」	コミュニケーションの手段について、意見文を発表しよう	イ	筆者の考えを読み取る	自分の意見文をかき発表する。

◆6年生 「学級討論会をしよう」

「修学旅行のグループ分けをどうするか」という6年生の児童にとって身近なテーマで討論会を行い、自他の意見を受けて自分の意見文を論理的にまとめることをねらった理解と表現の関連単元を設定した。

討論会の後に自分の考えを意見文として描く言語活動を設定した。説得力のある意見文を書くためには、学級討論会での話し合いでの考えをまとめる必要がある。そこで、マトリックスシートを用いて視覚的に意見の違いをまとめていった。また、学習指導改善調査を通じた授業改善のポイントとして提案している三角ロジックの考え方を取り入れて、論理的な主張を作る際には根拠・事実・理由付けを基に自分の意見を整理し意見文を書き上げた。



◆3年生 「読んで考えたことを発表しよう」(教材文：海をかつとばせ)

ゴールを「主人公に手紙を書く」と設定し、叙述から主人公の人物像を読み取り、それぞれの場面で自分と比べながら主人公の人物像の理解を深めさせた。場面ごとに「主人公と自分を比べて考えたこと」の感想メモを書く活動を行ったが、単元の目標を示してスタートしたことが、目的意識をもち続け、見通しをもった学習への取組につながった。

また、読み取りの際のワークシートは、教材文通して1枚のシートにし、主人公と自分との比較が一目で分かるようになり、単元で何をしたらいいのかが分かりやすい「単元ナビゲーション」の役割にもなった。

◆1年生「いきもの発見ブックを作ろう」(教材文：見つけた)

単元のゴールを「いろいろな生き物の発見カードを書くこと」と設定した。教材文の読み取りでは、「いる所」「見つけるための特徴」「見つけ方」の3つの観点(教材文の特徴)に気付かせながら、読み取りを進めた。また、生き物の本の並行読書を進めていった。

単元の最後には、教材文の特徴の3つの観点をういて、自分の調べた生き物についてカードに書いて図鑑としてまとめた。観点ごとに色分けしたカードを用意し、視覚的に分類させて書かせることが効果的だった。1年生にとって、生き物の本を読み、3つの視点に合った事柄を見つけることは難しかったが、教材文の記述の仕方を何度も振り返りながら、自分の生き物をカードに書くことができた。



◆4年生 「写真と文章で説明しよう」

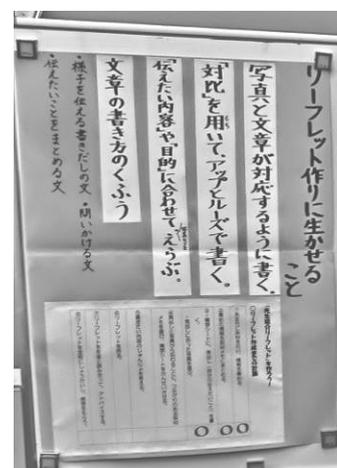
(教材文：「アップとルーズで伝える」「仕事リーフレットを作ろう」)

「読むこと」の教材「アップとルーズで伝える」と「書くこと」の教材「仕事リーフレットを作ろう」を合わせて、「先生リーフレットを作ろう」単元を読み書き関連単元として構成した。

「理解」の段階では、写真と文章を対応させながら、アップとルーズの特徴を捉えると共に、リーフレット作りの工夫点も探すという視点を持って読み取りを進めた。

「モデルリーフレット」を示したり、本時で行うことを例示したりすることで、児童がどのようなものを作るのが明確になり、意欲的に取り組むことができた。

リーフレットの作成に当たり、教職員の取材をしながら集めた資料(写真やインタビュー内容等)をもとに、リーフレットを通して伝えたいことを取材メモに記録していった。アップの写真に合わせて「仕事に対する思いや人柄」、ルーズの写真に合わせて「どんな仕事をしているか」を書くために、児童はたくさんの取材メモから、必要なメモを選び、紹介文を作成することができた。



◆5年生「コミュニケーションの手段について、意見文を発表しよう」

(教材文：ゆるやかにつながるインターネット)

「コミュニケーションの手段について、意見文を自分の考えをもち、発表する」という言語活動を設定した。ちょうど5年生では、「社会科」でも「情報ネットワーク」や「情報リテラシー」について学んだり、『ネット利用安全教室』でスマホや携帯電話の安全な使い方について話を聞いたりして、意識を継続して取り組むことができた。

教材文の読み取りでは、段落ごとにキーワードを抑え、要約するとともに、自分の意見をまとめる活動を行いながら進めた。

「表現」の際には、教材文の構成（特色、すばらしい点、危うさ、結論）に沿って、3つのコミュニケーション手段についての自分の意見をまとめ、文章化した。意見文のモデル文の提示や構成を意識させた用紙になっていたことで、児童は限られた時間の中で自分の意見を記述していた。

(2) 各学期の重点単元

研究授業の他に、各学期に重点単元を設けて取組を行った。その取組は、以下のようである。

(ゴシック体は研究授業)

	時期	教材名	形式	単元を貫く言語活動
1年	1学期	「くちばし」	イ	鳥のくちばしについて形状からクイズを作り、説明する文章を書く。
	2学期	「見つけた」	ア	自分で選んだ「いきもの」や「車」について視点にそって書き、「生き物発見図鑑」や「乗り物図鑑」を作る。
		「じどう車くらべ」	イ	
3学期	「どうぶつの赤ちゃん」	イ	動物の赤ちゃんのすごいところ紹介をする。	
2年	1学期	「スイミー」	イ	文章中の言葉や文を書き抜き、感想を書く。
	2学期	「おもちゃの作り方」	ア	生活科「おもちゃ作り」と関連させ、説明書を書いた。
		「おもちゃの作り方」		
3学期	「おにごっこ」	イ	いろいろな遊びの遊び方について説明する文章を書く。	
3年	1学期	「海をかつとばせ」	イ	主人公と自分と比較しながら読み取り、主人公に対して手紙を書く。
	2学期	「すがたをかえる大豆」	ア	文の組み立てを意識して、「食べ物ひみつブック」を書く。
		「食べ物のひみつを教えます」		
3学期	「本で調べて、ほうこくしよう」	ウ	生活の中の不思議の答えを探して報告しよう	
4年	1学期	「動いて、考えて、また動く」	イ	説明文の内容に対する自分の考えをもち、意見文を書く。
	2学期	「アップとルーズで伝える」 「仕事リーフレット」を作ろう	ア	学校職員の仕事内容や人柄等をリーフレットにまとめる

	3 学期	「ウナギのなぞを追って」	イ	文章を要約したり、引用したりして 紹介文 を書くという活動を行う。
5 年	1 学期	「活動を報告する文章を書こう」	ウ	報告書 を書く。
	2 学期	「大造じいさんとガン」	イ	筆者の他の作品を紹介 する。
	3 学期	「ゆるやかにつながるインターネット」	イ	コミュニケーションの手段について、 意見文 を発表しよう
6 年	1 学期	「学級討論会をしよう」	ウ	相手の主張と自分の考えを比較し、解釈を加えて自分の主張を 意見文 に表す。
	2 学期	「『鳥獣戯画』を読む」 「この絵、わたしはこう見る」	ア	「下小美術館を作ろう」と単元を設定し、自分が選んだ絵の 解説文 を書いた。
	3 学期	「言葉は動く」	イ	「言葉」に関する 自分の考えを文章にまとめて友達と交流 する。

6 まとめ

「理解」と「表現」とを関連させた授業作りのためには、「単元を貫く言語活動」を効果的に位置付けることが重要であり、そのためには、それを意識した単元構成が必要である。本年度の授業研究等をもとに、次のように取り組むことが重要であると考えます。

(1) 1次では、単元の見通しを確実に持つ。

ゴールつまり単元の学習の最後では何をするのかを児童が十分理解して単元をスタートさせる。そのために、どんな学習を経てゴールに向かうのかも明確にさせる。

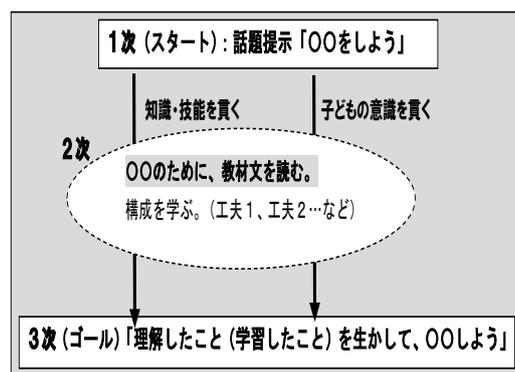
これは、この単元でどのような力を付けるのかという学習・学力の目標の明確化であり、児童には抽象的な学力を学習の成果としての形あるものに置き換えながら児童に理解させ、単元の学習に取り組ませるということである。

(2) 2次では、視点を持って読む。

書く、まとめる等表現するために読むことを意識させる。そのために、登場人物と自分とを比較しながら読む、表現方法の特徴を捉えながら読むなど視点を明確にさせる。表現活動に生かすために得たものをメモする、書き溜めることを意識させる。観点を抑えながらの並行読書も同様である。

視点を明確にして読み進める際、提示された単元の流れを示した図や既習事項（単元の学習開始以前のもの、単元の学習の中でのもの）をまとめた表、図等を確認しながら単元を進める。

これは、ゴールを意識した目的をもった主体的な読解を進めるためであり、拡大し提示された資料やノートにまとめたり貼り付けられた既習事項を確認したりしながら確実に学ぶというこ



とである。また、既習内容を振り返り、先を見通して学習する、つまり、今の自分の位置を確認するためのものでもある。

(3) 3次では、学習したことを生かし表現する。

まずは、学習で得た形式で表現することを意識させる。次に、自分の考えたこと、捉えたことが読み手に伝わるのか、分かりやすいのか、自己主張できるのかを意識させる。そのために、得た情報を整理する活動を重要視する。

これは、学習したことを自己の表現活動に生かすために確認することであり、「読む」で学習したことが「書く」の活動の中で、どう理解できたのかを評価する場にもなる。

5 課題と次年度の研究方向

意図的な「理解」と「表現」関連単元が、観点を持って読み進め、それを生かして書くことにつながった。目的意識を持って読み進めてきたこと、相手や場を意識した表現方法を体得できたこと、それが手ごたえとして表現に表れたこと等が、児童の自信にもつながってきている。

来年度以降も児童が自信をもって取り組めるような単元を通した言語活動の工夫や「相手に分かりやすく伝える」ために目的意識や相手意識を明確にして、表現できるような授業作りに取り組んでいく。